

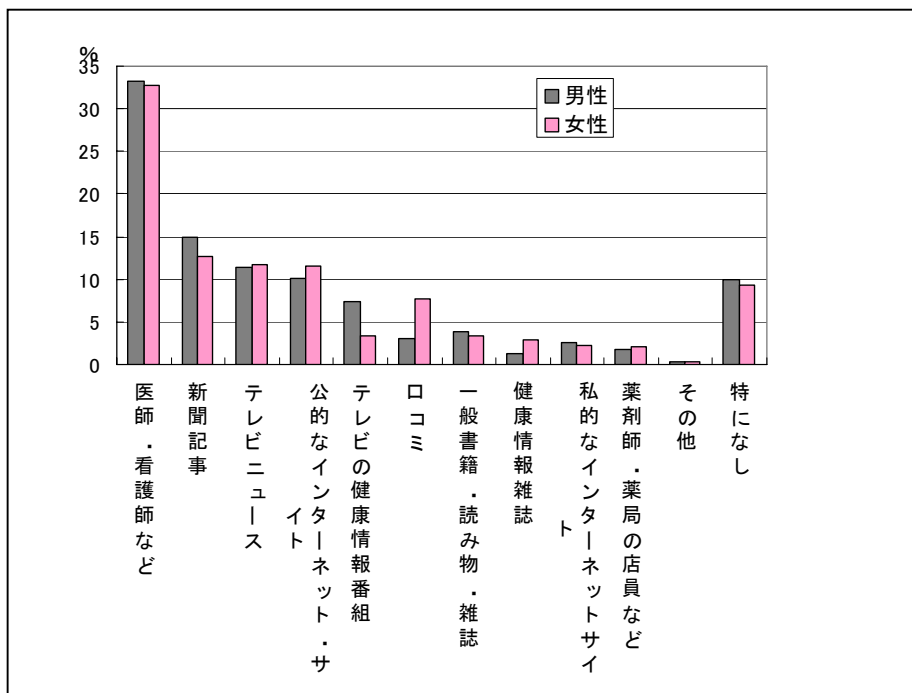
テレビの健康情報番組に関するアンケート結果

現代人の最大の関心事のひとつに「健康」があります。健康に関する様々な情報が玉石混交状態であふれる時代にあって、人々がこれらの情報をどのように受け止め、行動しているかを調査しました。あわせて、昨今、大きな社会問題にまでなったテレビでの健康情報番組の捏造(ねつぞう)に関して、その社会的影響を明らかにしました。

調査方法：平成19年2月9日～11日にかけて、男女合わせて1055人に対するウェブアンケートを実施。(本調査は、放送文化基金の助成をうけて実施されたものです)。

【主な結果】

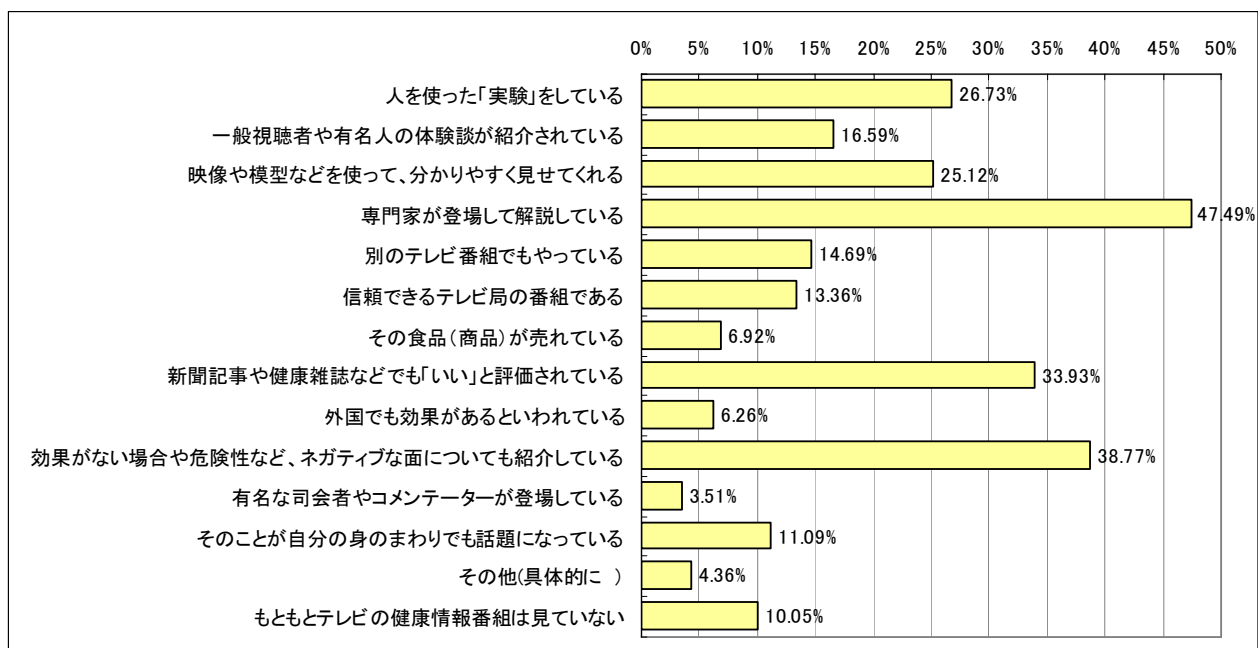
- 「自分や家族の健康」に何らかの不安をいだく人は、6割。
- 情報源として、よく利用するのは「テレビニュース」・「健康情報番組」・「新聞記事」、最も信頼できるのは、「医師・看護師」「新聞記事」「テレビニュース」で、テレビの健康情報番組を信頼する人は1割に満たない。【問3】
○最も信頼できる情報源（ひとつだけ）



■ テレビの健康情報番組を見る理由としては、「身体にいいことをわかりやすく教えてくれる」と同時に、「特に健康だけに限らず、バラエティ番組のひとつとして見ている」人が、いずれも4割以上。この種の番組が、日常の娯楽や話題のひとつとして見られていることがうかがわれる。【問5 および問8】

■ 健康情報番組の評価（役に立つかどうか）は「ケースバイケース」と答えた人が7割に達するが、テレビ番組を見て、食品などの購入経験者は7割に達する【問6、問7】。

■ 一般的に、テレビの健康情報番組を信用する理由としては、「専門家の登場・解説」をあげる人がもっとも多く（5割）、情報源の信頼要因として、専門家の果たす役割が大きい。【問9：複数回答】



- 納豆の健康効果に関する番組（「あるあるⅡ」）での情報捏造が問題になった。テレビ番組自体を見た人は2割だが、番組は見えていないが、話をロコミできいた人が7割近くいる。情報に接して、納豆を購入しようとした人は、全体の1割。番組捏造が発覚したが、6割の人が今後とも健康情報番組を見るものの、冷静に見ていきたい、としている。【問10、問11】

1	それまで納豆を食べる習慣はなかったが、番組の話をきいて、納豆を購入しようとした(売切れで購入できなかった場合も含みます)	28	2.90%
2	納豆は食べるが、番組の話をきいて、いつもより多めに納豆を購入しようとした(売切れで購入できなかった場合も含みます)	113	11.72%
3	納豆は食べるが、そのためにわざわざ購入しようとは思わなかった	664	68.88%
4	もともと納豆を食べる習慣がないし、購入しようとは思わなかった	159	16.49%

- 健康情報番組（あるあるⅡ）の情報捏造の社会的影響は、決して小さくはなかったが、人々は、この種の健康情報番組を日常的な楽しみのひとつとして接しているという局面も無視できない。
- 情報の信頼性を左右する要因として、いわゆる「専門家」の役割は大きく、専門家の見解や研究内容が間違っていて伝えられていないかどうかなどについて、専門家自身によるチェックができる仕組みづくりが不可欠である。

問合せ先：未来工学研究所 主席研究員 和田雄志

電話：03-5245-1012

メール：yj.wada@iftech.or.jp